ミッド・パシフィックが提供する未来の課題に備えた世界的に通用する学び手を育むためのプログラムの一つが、クリストファー・フェリーが指導する英語言語開発（ELD）プログラムです。このプログラムは、現在107名在籍している国際的な生徒のうち24名を対象にしており、言語学習に個別化された没入型のアプローチを提供し、学生が迅速に英語力を身につけながら、広範なオウル・オハナ（ミッド・パシフィックのコミュニティ）の一員として積極的に参加できるようにします。

ミッド・パシフィックのELDプログラムは、3つのレベルに分かれており、それぞれが言語習得を加速させ、7年生から11年生の学生を主流の授業にできるだけ早く参加できるように設計されています。「私たちの目標は、学生が3年以内に学術的な英語の習熟度を達成できるように支援することです」とフェリーは言います。他の学校の大規模なプログラムでは、学生が主流である通常の授業に追いつけず苦しむ場合がありますが、ミッド・パシフィックのELDクラスは通常8～10人の少人数制で、個別的な指導に焦点を当てています。この類のないでパーソナライズされた集中型の環境は、生徒の言語、問題解決能力、批判的思考力を向上させ、新しい学問的・文化的な環境において自信と快適さを育む手助けとなります。プロジェクトベースの学習、文化交流、没入体験を通じて、生徒たちは実社会に基づいた有意義な活動に参加することができるのですー。「私たちは英語を教えるだけでなく、コミュニケーション、協力、文化的適応能力を教えています。これらはミッド・パシフィックのビジョン、ミッション、学習者のプロファイルの核心と言えるでしょう。」

帰属意識を育む場所

ELDプログラムのユニークな強みの一つは、国際的な学生と地元の学生とのつながりを築くことに重きを置いている点です。ティーチング・アシスタント（TA）プログラムでは、地元の学生と主流の留学生がELDの学生と一緒に勉強し、教室でのサポートを提供し、文化を越えた友達を作ることが推進されています。さらに、「グローブトロッターズ」などのクラブは、楽しいイベントや文化交流活動を企画し、これらの関係をさらに強化しています。この協力的な環境と統合は、ELDの生徒が強い学問的・社会的なつながりを築き、移行をスムーズで支援的なものにします。さらにミッド・パシフィックは、コミュニティ形成への活動や、協力・コミュニケーション能力の重要性を強調しており、これらは学生が学術的に成功し、グローバル化した世界で活躍するために不可欠なスキルとなります。

「留学生は、回復力(しなやかさ)、適応力、多様な視点を持ち込み、コミュニティ全体に利益をもたらし、刺激を与えています」とフェリーは説明します。「共に働くことによって、留学生と地元の学生は、未来で生かす貴重なスキルを育てています。」

課外活動への参加はミッド・パシフィックで強く推奨されており、留学生は地元の学生と同じように幅広い機会に挑戦することができます。演劇やダンスからスポーツチーム、学術クラブまで、これらの活動は留学生が実際の場面で英語を練習し、友達をつくり、学校のコミュニティに完全に統合されるための重要な手段となります。

フェリーはこれらの経験の重要性を強調しています。「教室外で活動に参加することは留学生がよりつながりを感じ、自信を持つ手助けになります。スポーツに参加したり、クラブに参加したりすることで、言語学習が強化され、ミッド・パシフィックでの時間がより充実したものになるでしょう。」

ミッド・パシフィックの特徴的な点の一つは、その多様で親しみやすさをもつ学校独自の文化です。個人的な関係を築き、支援的な環境を提供することに重点を置く学校は、留学生が新しい国で言語、

文化を乗り越える際に安全で快適に感じることができ、学問的・社会的に活躍するための自信を与えます。

「ミッド・パシフィックでは、すべての学生が自分の家にいるように感じることができるように心がけています」とフェリーは言います。「私たちの学校は、学生が自分の文化的アイデンティティを尊重しながら、新しい環境に適応し、最大限に活躍できるよう促すものです。」

未来への目標

今後、フェリーはELDプログラムに意欲的な目標を掲げています。彼は、言語指導をさらにパーソナライズし、生徒の体験を向上させるために、AI主導の学習ツールを積極的に取り入れ始めているのです。「特定の生徒の文法ニーズに適応するチャットボットを構築するなど、言語学習のいくつかの側面をパーソナライズすることで、私たちは、生徒が学習者プロファイルに沿ったスキルを伸ばし、学校外の世界により簡単に移行できるようにするプロジェクトに貴重な授業時間をより多く費やすことができる。」とフェリーはいいます。フェリーは彼の同僚であるベラ・コングドンが長年にわたってこの点を革新してきたことを高く評価しています。「彼女のプロジェクトは、生徒が自分の情熱に従うことを奨励すると同時に、地域社会と共有できる本物の成果物を目指しているのです。たとえば今、彼女の生徒たちは、自分たちの母国の文化や個人の価値観を反映した絵本の執筆に取り組んでいます。この本は、学期後半に小学生達に読み聞かせる予定です。」とフェリーは説明しています。

このプロセスを通じて、フェリーにとって継続的なアクションリサーチは最優先事項です。彼は、ミッド・パシフィックの教育技術者であるジョン・ペニングトン博士やハワイ大学の教授たちと協力し、ChatGPTを使った学生のプレゼンテーションスキルや言語の複雑さへの影響を調査しています。彼らは現在、教育者がこの新しい技術を使いこなすための指針となる論文の準備を進めています。「LLM（大規模言語モデル）に関しては、過度の期待と恐れが存在しますが、進むべき道は研究を行い、最適な実践方法を見つけることです。学生がこのプロセスに関与することが重要であり、研究がどのように行われ、専門的な実践に統合されるかを理解することができるようにすることです」とフェリーは述べています。「私たちは成長し、革新を続けることで、留学生が最高の教育と機会を受けられるようにしていきます。」